

<p>【技術の名称】 Portal Grid 工法 (PG 工法) -PG フレーム(外付け門形鉄骨)による耐震補強工法- (改定2)</p>	<p>性能証明番号 : GBRC 性能証明 第04-16号 改2 性能証明発効日 : 2012年11月19日</p> <p>【取得者】 PG耐震補強システム研究会 (代表会社) 株式会社森林経済工学研究所</p>
--	--

【技術の概要】

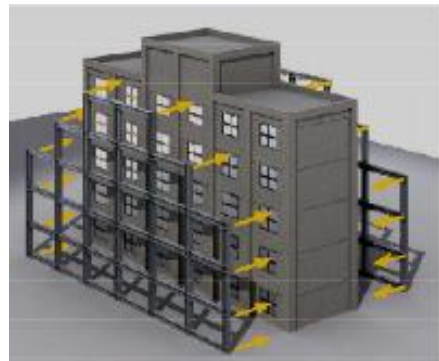
本技術は、鉄筋コンクリート造および鉄骨鉄筋コンクリート造の既存建築物の耐震補強に適用する PG フレーム(外付け門形鉄骨)による耐震補強工法である。本工法では、あと施工アンカー、スタッドおよび充填材料で構成される間接接合部を介して、新設の PG フレームが既存骨組の屋外側に取り付けられる。本工法の特徴は、既存柱の断面剛性に応じた H 形鋼の柱、梁で構成した PG フレームを用いる点、ならびに間接接合部の充填材料として JIS 規格に適合する低熱ポルトランドセメントと膨張材を組合せて用いている点である。



施工例：宮城教育大学／施工（株）コンステック

【改定の内容】

- 新規 : GBRC 性能証明 第04-16号 (2005年3月1日)
 改定1 : GBRC 性能証明 第04-16号 改 (2008年3月4日)
- ・設計内容の変更 (補強鉄骨柱の曲げ剛性、既存 RC 柱のせん断余裕率)
 - ・仕様追加 (頭付きスタッドの最大径、PG モルタルの圧縮強度)
 - ・仕様変更 (一部のあと施工アンカーの省略、あと施工アンカーの有効埋込み深さ)
 - ・研究会参加企業の追加
- 改定2 : GBRC 性能証明 第04-16号 改2 (今回)
- ・工法の管理体制の変更
 - ・設計例の一部の追記・修正
 - ・研究会参加企業の追加



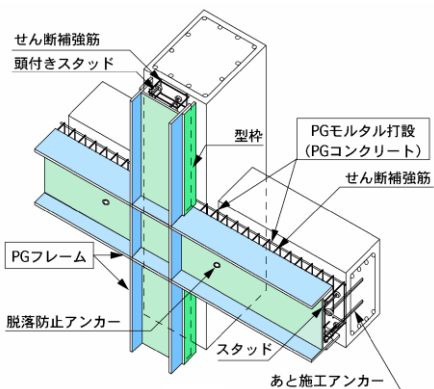
PG 工法概念図

【技術開発の趣旨】

従来の鉄骨ブレースを用いる耐震補強工法によると、高い耐力が確保される反面、既存建築物の屋外面を遮断し、美観を損なうことがある。本工法は、既存建築物の外観を大きく変えることなく、高い耐震補強効果を確保することを意図して開発されたものである。

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。
 申込者提案の「Portal Grid 工法 (PG 工法) 設計・施工指針」に基づき設計・施工された PG フレームと既存骨組からなる耐震補強架構は、同指針で規定している終局耐力および変形性能(耐震診断において用いる靱性指標 F 値)を有すると判断される。



PG 工法構造アイソメ

【本技術の問合せ先】

PG 耐震補強システム研究会
 (代表会社) 株式会社森林経済工学研究所 担当者：今井克彦 E-mail : karl@shinrin-ken. co. jp
 〒563-0041 池田市満寿美町 7-16 TEL : 072-750-2286 FAX : 072-750-2265